

交通安全計画用語解説

番号	ページ	用語	内容
1	P.3	MaaS	Mobility as a Serviceの頭文字をとったもので、複数の交通手段をITで統合し、検索、予約、決済を一括で行えるサービスのこと。
2	P.3	EBPM	Evidence Based Policy Makingの頭文字をとったもので、証拠に基づく政策立案のこと。
3	P.4	ICT	Information and Communications Technologyの頭文字をとったもので、通信技術を活用したコミュニケーションを意味する。電話線やワイヤレス信号による通信とコンピュータ、主要な企業アプリケーション、視聴覚システムなどを統合し、ユーザー情報をアクセス、保存、送信、操作できるようにする技術のこと。
4	P.4	運輸安全マネジメント評価	運輸事業者が社内一丸となった安全管理体制を構築・改善し、国がその実施状況を評価すること。このことにより、運輸事業者の安全風土の構築、安全意識の浸透を図ること。
5	P.6	重傷者	交通事故によって負傷し、1か月(30日)以上の治療を要する者のこと。
6	P.12	生活道路	その地域に生活する人が、住宅などから主要な道路に出るまでに利用する道のこと。
7	P.12	幹線道路	道路網の基幹となる道路のこと。
8	P.15	ハンプ	車両の低速走行等を促すための道路に設ける盛り上がり(凸部)のこと。
9	P.15	スムーズ横断歩道	速度抑制効果の高い路面を盛り上げたハンプと組み合わせた横断歩道のこと。
10	P.16	ETC2.0	これまでのETC(Electronic Toll Collection Systemの頭文字をとったもので、高速道路や有料道路の料金所ゲートで、自動車や自動二輪に搭載した車載器と無線通信を行い、車種や通行区間を判別して認証や決済を行うシステム。)と比して、①大量の情報の送受信が可能となる、②ICの出入り情報だけでなく、経路情報の把握が可能となるなど、格段と進化した機能を有しており、道路利用者はもちろん、道路政策に様々なメリットをもたらす、ITS推進に大きく寄与するシステムのこと。
11	P.17	交通需要マネジメント(TDM)	Transportation Demand Managementの頭文字をとったもので、自動車の効率的利用や公共交通への利用転換など、交通行動の変更を促して、発生交通量の抑制や集中の平準化など、「交通需要の調整」を行うことにより、道路交通混雑を緩和していく取組のこと。
12	P.17	高度道路交通システム(ITS)	Intelligent Transport Systemsの頭文字をとったもので、最先端の情報通信技術を用いて人と道路と車両とを情報でネットワークすることにより、交通事故、渋滞などといった道路交通問題の解決を目的に構築する新しい交通システムのこと。
13	P.18	高度化PICS	Bluetoothを活用し、スマートフォン等に対して、歩行者用信号情報を送信するとともに、スマートフォン等の操作により青信号時間の延長を可能とするものこと。
14	P.18	ライジングボラード	車の進入を抑止し、特定のグループの車のみを可能とすることを目的とした構造で、許可された車両が進入する場合、道路に設置された自動昇降ポールを下降させることにより通行が可能となる仕組みのこと。
15	P.19	エスコートゾーン	道路を横断する視覚障害者に対し、安全性及び利便性を向上させるために、横断歩道上に設置する突起体の列のこと。
16	P.19	昇降装置付立体横断施設	横断歩道橋あるいは地下横断歩道のように、道路・鉄道等を横断して設けられる横断者の安全を確保するための立体横断施設に、バリアフリー対策としてエレベーターを設けたものこと。
17	P.19	高規格幹線道路	全国的な自動車交通網を形成する自動車専用道路のこと。
18	P.20	視距	ドライバーが道路上で見通すことのできる距離のこと。
19	P.21	区画道路	沿線宅地のための交通、供給処理施設の収容、日照、通風等のための道路のこと。
20	P.21	狭さく	自動車の通行部分の幅を物理的に狭くする、あるいは、視覚的にそう見せることにより自動車の速度低減を図る工作物のこと。
21	P.21	マルチモーダル施策	良好な交通環境を作るために、複数の交通機関と連携し、市街地への車の集中を緩和する総合的な交通の施策のこと。
22	P.21	交通結節点	利用者が複数の交通機関を利用する場合に、交通機関相互の乗り換え・乗り継ぎを行う施設のこと。
23	P.21	中央分離帯強化型防護柵	標準型の中央分離帯防護柵に比べ、支柱間隔を短く、補強梁を多く配置し、衝撃に強くしたもののこと。

24	P.21	自発光式視線誘導標	道路の側方や中央などに沿って、路端や道路線形などを明示して、昼夜間における車両運転者の視線誘導を行うために設置する、自発光式施設の総称のこと。
25	P.21	高機能舗装	雨天時のスリップ事故等を防ぐため、路面の排水性を向上させた舗装のこと。従来の舗装より空隙が多いため、排水機能に加え、騒音の低減効果も有する。
26	P.21	高視認性区画線	夜間や雨天時における視認性の確保や、居眠りや脇見による車線逸脱の防止のために、ライン上にリブ部(突起)を設置したり、通常よりも再帰反射効果の高いビーズを使用したりする区画線、道路標示のこと。
27	P.22	道路交通情報通信システム(VICS)	Vehicle Information and Communication Systemの頭文字をとったもので、新交通管理システム(UTMS)を構成するシステムの一つであり、カーナビゲーションに渋滞等の交通情報を提供し、交通流の分散化、旅行時間の短縮等運転者の利便性の向上を図るシステムのこと。
28	P.22	ペDESTリアンデッキ	歩行者を保護するために車道と分離し立体的に設置した歩行者路のこと。
29	P.24	新交通管理システム(UTMS)	Universal Traffic Management Systemsの頭文字をとったもので、光ビーコンを使用して、個々の車両と交通管制システムとの双方向通信等の高度な情報通信技術により、「安全・快適にして環境に優しい交通社会」の実現を目指すシステムのこと。
30	P.26	信号情報活用運転支援システム(TSPS)	Traffic Signal Prediction Systemsの頭文字をとったもので、道路脇に設置された高度化光ビーコンから取得できる信号情報と、自車の位置や速度の情報を用いて、信号のある交差点での円滑な運転を支援するシステムのこと。
31	P.26	公共車両優先システム(PTPS)	Public Transportation Priority Systemsの頭文字をとったもので、新交通管理システム(UTMS)を構成するシステムの一つであり、バスの走行を感知し、優先信号制御を行いスムーズな走行を確保することにより、バスの定時運行等を図るシステムのこと。
32	P.30	道路ふれあい月間	各種運動を通じて、道路利用者に改めて道路とふれあい、道路の役割及び重要性を再認識してもらい、さらには道路をいづくしむという道路愛護活動の推進及び道路の正しい利用の啓発を図り、道路を常に広く、美しく、安全に利用する気運を高めることを目的に毎年8月に実施している月間のこと。
33	P.42	運行補助機能(DCAS)	Driver Control Assistance Systemの頭文字をとったもので、ドライバーの運転を支援し、車両の縦方向(加減速)および横方向(操舵)の動きを持続的に制御するシステムのこと。
34	P.42	自動車アセスメント情報	現在市販されている自動車の性能について、さまざまな試験により評価を行った結果のこと。公表することで、車を選ぶ際の判断材料として活用することができる。
35	P.43	地理情報システム	地理的位置を手がかりに、位置に関する情報を持ったデータ(空間データ)を総合的に管理・加工し、視覚的に表示し、高度な分析や迅速な判断を可能にする技術のこと。
36	P.49	先進安全自動車(ASV)	Advanced Safety Vehicleの頭文字をとったもので、先進技術を利用してドライバーの安全運転を支援するシステムを搭載した自動車のこと。
37	P.50	スクリーニング検査	無症状の集団を対象に検査を行い、目標とする疾病の罹患者や発症が予測される患者をふるい分けること。
38	P.53	前面衝突試験(MPDB)	Mobile Progressive Deformable Barrierの頭文字をとったもので、試験自動車に衝突させる台車及びプログレッシブデフォーダブルバリアからなる装置のこと。
39	P.54	車載式故障診断装置(OBD)	On Board Diagnosticsの頭文字をとったもので、車両に搭載されたコンピューターが自己故障診断を行うシステムのこと。
40	P.60	自動体外式除細動器(AED)	Automated External Defibrillatorの頭文字をとったもので、心停止の人を救命する医療機器のこと。
41	P.60	救急の日	消防庁及び厚生労働省により、救急業務及び救急医療に対して国民の理解と認識を深め、救急医療関係者の意識の高揚を図ることを目的に定められた日のことで、毎年9月9日に設定されている。
42	P.60	救急医療週間	救急の日(9月9日)を含む1週間(日曜日から土曜日まで)を救急医療週間と定め、各地において救急医療の適正利用の啓発や応急手当の講習会等を中心とした救急に関する様々な行事が実施される期間のこと。
43	P.61	メディカルコントロール	救急現場から医療機関へ搬送されるまでの間において、救急救命士等が医療行為を実施する場合、当該医療行為を医師が指示又は指導・助言および検証してそれらの医療行為の質を保障すること。
44	P.61	緊急通報システム(HELP)	新交通管理システム(UTMS)の中の一つのサブシステムであり、運転中に緊急事態が発生した場合、このシステムが作動(手動・自動)することにより所在地が早期に把握でき、緊急車両の現場到着を短縮するためのシステムのこと。
45	P.61	先進型事故自動緊急通報装置(AACN)	Advanced Automatic Collision Notificationの頭文字をとったもので、エアバッグが展開するような大きな事故が発生した際、自動的に救急コールセンターへ通報するシステムのこと。
46	P.69	ホームドア	駅のホームの縁端に設けられたホームと線路を仕切るドアのこと。
47	P.70	速度制限機能付き自動列車停止装置(ATS)	Automatic Train Stopの頭文字をとったもので、曲線等の線路の条件に応じて列車の速度を自動的に、当該速度制限箇所の手前までに安全上支障のない速度まで減速、又は停止させる装置のこと。

48	P.70	法令により整備の期限が定められたもの	1時間当たりの最高運行本数が往復10本以上の線区の施設又はその線区を走行する車両若しくは運転速度が100km/hを超える車両又はその車両が走行する線区の施設について10年以内に整備するよう義務付けられたもののこと。
49	P.76	オーバーハング型警報装置	踏切の存在を目立たせ、遠くからでも認識できるように、踏切の上方に取り付けた警報装置のこと。
50	P.76	大型遮断装置	通常の2倍程度の太さにした棒を使用し、遮断かんの視認性向上を図ったもののこと。
51	P.76	全方位型警報装置	1台で全方向から警報灯の視認ができる踏切警報灯のこと。